

---

# 率直な海

rutu

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

率直な海

### 【Nコード】

N9731E

### 【作者名】

rutu

### 【あらすじ】

男は突然荷物を捨てて歩き始めた。

暑い日差しを割って歩く。

一歩、二歩。

時間が後についてくる。

見慣れた街はなかなか目に入らない。

ただ見えるのは慣れない人、人。

その間を鳩が歩く、歩く。

雲がぐつと近づいて、涼しくなった。

前のカップルを追い越す。

ぐんぐん前へ加速していく、街並を過ぎて振り返る。

相変わらず街は黙ったまま。

信号が青に変わったらしい。単調な足音。間には相打ちを打つように鞆の中身がぶつぶつ。

先を歩く人が振り向く。

手で押さえて音が出ないようにして、苦しく歩き続けた。

満員電車だったが、頑張って歩たから、席にどうにか座ることができた。

ガタンゴトン。

前を見るとあのカップルも席に座ることができていた。

視界が人にさえぎられる。  
十分だ。

席を人に譲り、電車をおりた。

日の光が飛び込んできた。

蝉の死骸を紙一重でかわし

新しい街に包み込まれて。

叫びたくなる。

夕焼けがしみる。

急に後ろに加速して、ふっと位置がわからなくなる。

ぐんぐん自分が前に離れて行く。

気がつくとも最初に飛び出した街だった。

見慣れた街は優しいピンクに染まり。

自分の色を思いださせてくれた。

鳩が空に飛び立つのを見送った。

さっき地面に叩きつけた自分の荷物が道路に散乱している。

ふと、視線を落とした。

しゃがんで一つ一つ手に取って拾ってくれている彼女がいた。

ごめんと謝った。

そして、彼女は言った。

いいよ。

そして、元きた道を戻ることにした。

リーン、リーン

鈴虫がなっていた。

もう、溺れはしない。

ただ正直になつたら海はずっとずっとしよっぱくなくなった。

ためこんでいたものがせきをきっている。

いままで、押さえてきたもの。

ただ、いまは悪い気はしない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9731e/>

---

率直な海

2010年10月11日00時50分発行